

## 「わたしたちの居場所」

ルカによる福音書 2:1-20

2023年12月24日  
クリスマス燭火礼拝  
野村 友美 師

<はじめに>

みなさん、こんばんは。

そしてクリスマスおめでとうございます。

みなさんご存じのとおり、教会は毎年この時期に救い主イエス・キリストの誕生を記念して、クリスマスをお祝いしています。

今日は12月24日、クリスマス・イブと呼ばれる日です。どうしてクリスマス当日の明日じゃなくて、今晚、24日に礼拝するのか不思議に思う方もおられるんじゃないでしょうか。

クリスマス・イブ。おなじみのこの言葉は、「イエス・キリスト誕生の前夜」という意味ではありません。本来はクリスマス・イブニング、「クリスマスの夜」を指す言葉です。

イエス・キリストがお生まれになったイスラエルの暦では、日が沈んだ時から一日が始まります。

つまり、この24日の夜はイエス・キリストの誕生を祝う「クリスマス」という日のまさに始まりなんです。クリスマスの日になるや否や、この日を喜び祝う。そのために、教会は24日の夜にこうして礼拝しています。

クリスチャンでもそうじゃなくても、クリスマスでも他のときでも、教会は誰でも神様を礼拝しに来ることができる場所です。それは、教会の主人であるイエス様が、すべての人に居場所を差し出すためにやって来られたお方だから、と言っていいでしょう。

さて、あなたの居場所はどこですか？とお聞きしたら、みなさんはどうお答えになるのでしょうか。家、職場、学校、友だちとの集まり、習い事とかボランティアの仲間、教会。それぞれに思い浮かぶ場所があるかと思います。

自分はそこに属している、と思える場所。

安心してそこにいていいんだ、と思える場所。そこが、私たちにとっての「居場所」と呼べるところです。家族と一緒に居るときがいちばん落ち着く。気が合う仲間と過ごす時間がいちばん安心できる。1人で籠ってられる部屋こそ私の居場所だ。いろんな「居場所」があるでしょうが、とにかく居場所だと思えるところに居られるのは、とても安心して心地良いことです。

でも、ここは絶対に変わらない私の居場所だ、と言える場所を持っている方はどのくらいおられるでしょうか？家族や友だち、仕事仲間といった誰かとの関係は、時間の流れやそれぞれの状況に合わせて変わっていきます。

親がいつまでも生きていると思うな、と私の母もよく言っていたんですが、私たち人間はみんな限られ

た時間の中で生きています。誰とも必要以上に関わらないで、一人でいることに満足していても、私たち自身の心や体だって時間と共に変わってしまいます。一つや二つじゃなくて、たくさん居場所があったとしても、それはみんないつ変わるかわからないし、また確実に変わっていくものです。だから私たちはいつだって、心から安心できる、変わらないと思える居場所を求め続けながら生きていくんじゃないでしょうか。

<イエス様が生まれたところ>

今日、私たちが一緒に誕生をお祝いしてるイエス・キリスト。神様の子どもで、私たちすべての人のために来られた救い主。そのイエス様が生まれた最初の居場所は、厳かな神殿でも豪華な宮殿でもありませんでした。

それどころか、普通の人間の居場所でさえなかったんです。当時、イエス様が生まれたイスラエルという国は、ローマ帝国に支配されていました。そしてローマの皇帝アウグストゥスは、支配した国から税金を取るために大規模な人口調査を行ったようです。皇帝の命令で、イスラエルの人たちはみんな、日本で言うところの本籍地で住民登録をすることになりました。イエス様を生むことになったマリアと、彼女の夫になるヨセフも、二人が住んでいたナザレという町から、ヨセフの本籍地ベツレヘムの町へ向かいました。

ナザレからベツレヘムまで、だいたい120kmぐらいあるんだそうです。今だったら車で2時間ちょいですが、もちろん古代のイスラエルではそうはいきません。旅の荷物を抱えて、出産間近のマリアの体を労わりながら、二人は何日もかけてベツレヘムまで旅をしたはずです。埃だらけで疲れ切って、しかもいつマリアのお腹の子が生まれるかもわかりませんから、少しでも早くどこかに居場所を見つけて安心したかったでしょう。

でもベツレヘムは、同じように住民登録をしにきた人たちでいっぱいでした。マリアは今にも赤ちゃんが生まれそうな状態ですから、相部屋も他の人たちから嫌がられたんじゃないかと思います。

さらに、イスラエルの律法にはちょっと面倒な決まりごとがありました。出血を伴うお産は「汚れ」と見なされて、出産後の女性はその汚れが清くなると認められるまで1ヶ月以上、家に引きこもらないといけなかったんです。

ただでさえ人が混み合うこの時期に、個室を1ヶ月も占領するかもしれないお客を泊めるのは、宿屋にとってもリスクが大きかったでしょう。マリアとヨセフを受け入れてくれる宿屋は、どこにもありませんでした。もし親戚とか知り合いがベツレヘムにいたとしても、頼れない事情が二人にはありました。マリアとヨセフはいいはずけ、つまりまだ結婚はしていなかったんです。なのにマリアが妊娠しているというのは、律法に違反していることでした。

これは神様がなされたことで、マリアのお腹の中にいるのは神様の子どもなんだ、なんて説明したって、とても信じてはもらえなかったでしょう。二人を温かく迎え入れてくれる場所、安心して落ち着ける居場所はベツレヘムの人たちの間にはどこにもなかったんです。

最終的にマリアとヨセフがたどり着いた居場所。イエス様がお生まれになったその場所は、家畜たちの居場所でした。赤ちゃんのために用意されるはずの寝床じゃなくて、家畜の餌を入れるための飼料葉桶にイエス様は寝かされました。神様の子どもは、居場所のない人として生まれきたんです。

居場所がない、居場所が欲しい、と寂しくて不安な気持ちで求め続けるすべての人に寄り添う救い主として。

<居場所のない者たちのために>

居場所のない救い主、イエス様の誕生を最初に知らされたのは、町の外で野宿をしながら羊の群れの番をしていた羊飼いたちでした。彼らもまた、居場所がなかった人たちです。たくさんの羊たちが一緒ですから、普段から町の中では過ごせません。それに、毎日羊の世話をしている彼らには、イスラエルの律法をちゃんと守ることができませんでした。安息日には仕事をしてはいけませんって言われても、羊が草を食べたり水を飲んだりするのを安息日だけ止めさせる訳にもいきません。礼拝の時間だ

からって、羊たちを放つたらかしにもできません。手を洗い清めてから食事をしなさい、という決まりを守りたくても、野原の真ん中には手を洗うための井戸もありません。だから、律法をちゃんと守ることが信仰の証明だ、と考えていたイスラエルの人たち、特に宗教指導者たちにとって、羊飼いたちは見捨てられたも同然の人たちでした。

同じ民族の中でも、羊飼いが安心して落ち着ける居場所はほとんどなかったんです。この場所にふさわしくない。そこに居ていい、と認めてもらえる理由とか資格とか能力がない。

だから自分は、あの人は、そこに居るべきじゃない。なんて、自分のことも他人のことも勝手に裁いて、お互いの居場所を削り取ってしまう。そんな弱さをいつの時代も、どんな場所でも、私たち人間は抱えているものです。居場所がない羊飼いたちのところに、イエス様の誕生を知らせる天使は現れました。すべての人に与えられる大きな喜びを、誰よりもまず、居場所のない寂しさを味わっている羊飼いたちに知らせるために。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主が生まれになった。」

あなたがたのために、天使はそう告げ知らせました。今日生まれた救い主は、飼料葉桶に寝かされている。一人の人間としての居場所も与えられない

で、家畜たちの間におられる。これがあなたがたへのしるしだ。居場所がない寂しさに苦しんでいるあなたたちのために、居場所を求めるすべての人たちのために救い主は来られた。そう天使は羊飼いたちのために伝えたんです。

この出来事を思い起こす時、大人になったイエス様が弟子たちに語られたこんな言葉を私はいつも思い出します。

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。

わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」

(ヨハネ14:1-3)

イエス様が十字架に架けられる前の晩、弟子たちと最後の食事をした後に、まだ何も知らない弟子たちに約束して言われた言葉です。この約束のとおり、イエス様は私たちのために居場所を用意してくださいました。神様のこともお互いのことも、自分のことだって上手く愛せない私たちの罪の責任を代わりに背負って、イエス様は十字架で死なれました。

神様のところに居場所なんかない、神様と一緒に生きる資格がない、と自分や他の人たちを裁いて、神様のそばから追い出してしまおう。そんな私たちを、イエス様が命がけで解放してくださったんです。

死からよみがえられたイエス様は、弟子たちとの約束のとおり、私たちを変わる事のない居場所に招いてくださっています。

孤独だ、寂しい、どこにも居場所がない。

そう感じた時はどうか思い出してください。

どこよりも、何よりも、安心できる変わらない居場所を私たちすべての人に差し出してくださる救い主、イエス様がお生まれになりました。私たち一人一人に命を与えて、ずっと変わらずに愛してくださる神様が今この時も私たちの居場所です。

この体の命を生き終わったその後も、死を超えて神様と一緒に生きる命がイエス様を信じるすべての人に用意された居場所です。

今日あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。

お祈りいたしましょう。